

## 医学系研究に関する情報の公開について

研究機関名*	独立行政法人労働者健康安全機構 大阪労災病院
研究課題名*	急性胆管炎・膵炎に対する超音波内視鏡検査の有用性に関する検討
所属科*	消化器内科
研究責任者*	法水 淳
研究実施期間	開始 西暦 2020年 1月 日 ~ 終了 西暦 2025年 3月 31日 (予定)
対象疾患 (予定症例数)	急性胆管炎・膵炎 ( 106 症例)
研究対象となる治療・手術・検査の時期	自 西暦 2020年 1月 日 ~ 至 西暦 2022年 3月 日
研究概要*	<p>【背景】本邦の急性胆管炎・胆嚢炎診療ガイドラインでは、急性胆管炎の初期治療について重症度判定を用いた治療方針選択が推奨されている。総胆管結石は胆管炎の主な原因の一つであるが、上記ガイドラインにおいて、初期治療時の総胆管結石の有無による評価については言及されていない。総胆管結石による結石性胆管炎や総胆管結石性膵炎において内視鏡的逆行性胆管膵管造影 (ERCP) 等による胆道ドレナージは有用であるが、ERCP は急性膵炎等の重篤な合併症のリスクのある処置であり、不要な ERCP は避けることが望ましい。超音波内視鏡検査 (EUS) は、総胆管結石の検出において感度と良好な検出率を示すとされている検査であり、総胆管結石を疑う症例に対して EUS を先行して行い総胆管結石を除外することで不要な ERCP を避け、全体の合併症率を低下させるという報告がある。</p> <p>【目的】急性胆管炎・膵炎における EUS の有用性検討する。</p> <p>【方法】当院で 2020年 1月～2022年 3月の間に、急性胆管炎、急性膵炎と診断し、その原因として総胆管結石の存在が疑われるが、画像検査で結石の存在診断が困難であった 106例を対象に、既存の診療情報 (血液検査、画像検査、内視鏡治療内容 (EUS/ERCP 施行の有無等)、臨床経過の閲覧・評価を行い、EUS 施行の有用性に関して検討する。</p>
倫理的配慮・個人情報の保護の方法について*	連結可能匿名化を行う。対応表はそれぞれの部署 (施設・研究室) で厳重に保管する。本研究で得られたデータを当院外へ提供する際には対応表は提供せず、連結可能匿名化され

別紙第2号様式

	たデータのみを提供する。学会や論文等で研究成果を発表する場合も、個人を特定できる情報を明らかにすることは決して行わない。
研究の問い合わせ先*	大阪労災病院 消化器内科 法水 淳